

地域おこし研究員(協力隊)着任

大山町に 慶應義塾大学の 大学院生来る!

こんにちは。今年度より大山町の地域おこし研究員に着任した松浦生まつら いくるです。

地域おこし研究員とは、大山町が慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスとの連携協定に基づいて設けている制度で、「大学院生」と「地域おこし協力隊」の2つの立場(身分)を持ち、「研究」と「実践」の双方から、地方創生に貢献する活動を行います。

具体的には、「大学のない地域で、週末に大学生が暮らす仕組み」づくりを行いたいと考えています。大学生が週末のたびに集落で生活したり、イベントに参加したり、自らプロジェ

大学生を泊めてくださる方、
大学生と楽しく学びたい小・
中・高生を探しています!

いくる
生という
めずらしい名前なので、
覚えてください



いくる
松浦 生です



▲中学生たちと真剣討議中

クトを企画したりすることを通じ、大山町に活気をもたらすとともに、特に小中高生にとって身近な、人生のロールモデルにしてみらえるのではないかと思います。

私は、東京都郊外の日野市で高校までを過ごしましたが、地方に可能性を感じたこと、また、釣りや登山が趣味ということもあり、公立鳥取環境大学に進学しました。大学2年生時から、鳥取市用瀬町で、全国の大学生が地域の暮らしに溶け込みながら、小さなチャレンスを積み重ねていく仕組みを作り、その実践として、宿泊施設を運営しながら地域と大学生をつなぐ「もちがせ週末住人」という活動をしてきました。そして、

今年3月に大学を卒業し、慶應義塾大学院政策・メディア研究科に進学するとともに、大山町の地域おこし研究員に着任しました。

2019年4月から7月までは、神奈川県藤沢市にある慶應藤沢キャンパスで大学院の授業を受けていましたが、大山町には8月から移住し、役場企画課で働いています。まずは、大山町の暮らしを深く知るために、町内の様々な場所やイベント等に参加させていただいています。ロケーションはもちろんですが、大山町の一番の魅力はやはり、地域に根差し暮らしておられる方々の人生そのものだということを毎日実感しています。

「もちがせ週末住人」での経験を活かしつつ、大山町では事業者や農家、漁師、地域自主組織のみなさんなど、さまざまな市民のみなさんのご意見とご協力をいただきながら、新しい「だいせん週末住人」モデルをつくりたいと思います。大学生に経験してほしいことや、協力してほしいことなど、ご意見やご協力いただけたことがありましたら、どしどしお寄せください! よろしくお願いいたします。

◆問い合わせ先

企画課 ☎0859・54・5202